



顕微鏡で蚊の種類を判別。フィールドワークや実験室での作業を通じて、現地の人々に技術と知識を伝えている

まず、最初に訪れたのは、首都リロ

たな出会いへの期待と、自分には何が  
できるのかという思いが頭の中を駆け  
巡っていた。

日本から飛行機を乗り継いで約1日、  
マラウイはアフリカ南東部にある内陸  
国。北海道と九州を足したくらいの大  
きさで、人口の約8割が農業に従事し  
ている。1月は雨期ということもあり、  
少し肌寒い。「先人観は持たずに、あり  
のままのマラウイを見て感じたい」と  
真戸原さんは語った。

### マラウイで目にした 日本人の誇らしさ

まず、最初に訪れたのは、首都リロ

マラウイ全土30カ所から蚊を採  
取し、大学の実験室でウイルスを  
検出。感染症治療や予防、流行予  
測のために必要な基礎データを調  
べている。真戸原さんは、前川さ  
んらの活動について聞き、「日本人

ングウェから約1時間、マラウイの中  
でも最も貧しい地域の一つであるドー  
ワ島の病院。青年海外協力隊員の竹口  
美穂さんが、栄養士として、患者や地  
域の住民を対象とした栄養指導、栄養  
改善などに取り組んでいる。

この日は5歳児以下の健診のため、  
たくさん母親と子どもが集まってい  
た。竹口さんは健康に必要なことを伝  
えるため、病院スタッフと「ZAMA  
GULU(いろいろな食べ物を食べよ  
う)」という歌を作った。6つの食品群  
の名前を歌詞に盛り込んで、健診の時  
にお母さんたちと歌って覚えてもら  
うためだ。即興で真戸原さんもギター片  
手に参加。「マラウイのお母さんた  
ちは声も大きいし、歌もうまいな  
あ」。そう楽しそうに話してくれた。

続いて訪れたのが、マラウイ大  
学生物学部の研究室。独立行政法  
人日本学術振興会、長崎大学、JICA  
が共同で感染症防止のための  
研究に取り組んでいる。マラウイ  
は、マラリアをはじめ蚊が媒介す  
る感染症に悩まされているが、そ  
の実態は明らかになっていない。そ  
こで解明に乗り出したのが、前川  
芳秀JICA専門家と現地の研究  
者たちだ。

マラウイ全土30カ所から蚊を採  
取し、大学の実験室でウイルスを  
検出。感染症治療や予防、流行予  
測のために必要な基礎データを調  
べている。真戸原さんは、前川さ  
んらの活動について聞き、「日本人

### 村に密着した 日本のNGOによる支援

首都から約2時間、公益社団法人日  
本国際民間協力会(NICCO)が活  
動しているドーワ島ナンブーマの村へ。  
都市の景色から一変、一面に緑の大地  
が広がる。「アフリカの空の下にいると、  
日本での悩みや不安がとてもしさく感  
じるな」。真戸原さんはそう話しながら、  
真っ青な空を仰いだ。

衛生環境と栄養状態が悪く、感染症  
にもかかりやすい。正しい技術や知識  
を得る機会も限られ、農業の生産性も



NICCOが支援するエコサントイレを見学。手洗い用の水入れにはペットボトルを活用(写真提供: NICCO)

低く、収入も十分ではない。そんな貧  
困のスパイラルを断ち切るため、NIC  
COは村人と共に「飢餓の起きない村  
づくり」を目指している。

真戸原さんはその取り組みの一つで  
ある「エコサントイレ」を視察。尿、  
便を分別して、たい肥として畑に戻す  
システム。化学肥料は高価で手に入ら  
ないため、村人にとってはとても貴重  
だ。「大切な肥料として、このシステ  
ムがしっかりと根付いていることに感動  
します」。また、井戸の建設現場では、  
余った水を菜園に利用して野菜などを  
育て、その収益を井戸の修理費に充て  
ていた。こうした一つ一つの知恵と工  
夫が、村の人たちの生活向上につな  
がっているのだ。「日本人が教えたこと  
を、村の人がしっかりと守って継続して  
いるのがすごい」と真戸原さんは感銘を  
受けていた。

今回の視察で特に印象的だったのは、  
遠いアフリカの地で汗を流す日本の若  
者の姿だった。「内向きと言われていま  
すが、マラウイには志を持って、自分  
のために、誰かのために懸命に活動す  
る協力が隊員がいた。本当に頭が下が  
ります」。さまざまな出会いを通じて、  
真戸原さんにとって、アフリカは一気  
に身近な存在になった。これから彼の  
の優しい歌声に乗せて、アフリカでの  
経験をどのように伝えてくれるのか  
楽しみだ。



竹口さんが活動している病院でアンダーグラフの「ツバサ」を一緒に歌う

「アフリカのマラウイに行ってみま  
せんか？」

人気ロックバンド、アンダーグラフ  
のヴォーカル真戸原直人さんに、その  
声が掛かったのは数カ月前のこと。ア  
ーティストとして社会に貢献したい。  
そんな思いを抱き、2008年からC  
Dの売り上げの一部を開発途上国の子  
どもたちのワクチン購入に充てている  
真戸原さん。「なんとかしなきや！プロ  
ジェクト」※の著名人メンバーでもある  
彼は、「ワクチンの届け先の子どもたち  
に会いたい」という夢がかなない、昨年  
10月にミャンマーを訪問。さらに今回  
アフリカへの旅立ちの機会を得て、新

## 特別レポート

文=鈴木由佳里(JICA広報室)



教員養成校で体育の授業や部活動の指導方法を教える秋本啓太隊員の活動も視察(写真提供: 杉山遥)

# 真戸原直人さん アフリカの大地を 踏みしめて in マラウイ

アフリカ南東部の内陸国マラウイ。  
1月にこの国を訪れたのは、  
日本のロックバンド、アンダーグラフの真戸原直人さん。  
初めてアフリカの大地を踏みしめた彼は、  
現地の人々との出会いを通じて何を感じたのだろうか。



聴覚障害者の学校を訪問。日本から持ってきたサッカーボールをプレゼント。子どもたちとグラウンドでサッカーを楽しんだ

※途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクト。実行委員会は、NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)、JICA、国連開発計画(UNDP)。